

# ALBUS 10NEN NENPYOU

## SUPER PRIVATE & PUBLIC

4月30日 albus 開店。名前が生まれたのは3月12日。酒井はトレネと円陣を組んでアルバスをオープン



フォトプリンター山下真理子がアタック入社

お姉ちゃんの存在感な川内さん入社(2010卒業)

今も続く「子ども1店長」スタート

庭のミントのところに猫すみつく。命名ミント。数日後飼い主決まる

『PATINA

「Contemporary Art & Modern Craft Objects」展

初めて企画した写真公募展「アルバム」を開催

当初考えてなかったが、写真館としても活動開始

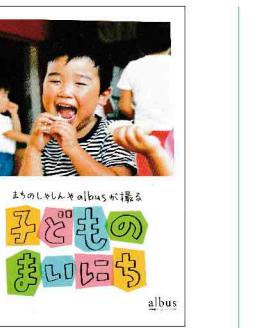
名刺を文字組活版で印刷してくれた寺尾印刷さんを取材した写真展を開催「酒井咲帆『言葉を組む仕事』」

初年度はほとんど年中無休で活動し、トレネは夜2時まで営業していた

酒井、1ヶ月後に写真屋は儲からない、とブログに記す

オープンから半年後に、この家に住んでいた方が東京から来店。「長く続けてくださいね」と声をかけてくださいました

平川雄一朗さんの写真スクールがスタート



初期の案内パンフレット

現在も関西圏の出張撮影をしてくれている中田禎子が入社。今もスタッフの心の支え(2014卒業)

7月に中田の結婚式。同じテーブルにはレベルファイブ日野社長が!

山下、パジャマで出勤

「10 ZINE」Vol.1開催!!!



クロキカオリさんがスタンぶらりを開催。警固、赤坂、桜坂をつないでくれた楽しい企画

和泉流狂言方 宮永優子さんの狂言ワークショップを開催。はっはーと笑い回る

西村佳悟さん著『いま地方で生きるということ』に掲載してもらう



長崎の写真屋「カメラのフォーカス」と撮影会を企画。フォーカスは2019年5月に借しまれながら閉店する

酒井、水戸芸術館で展覧会『いつかいた場所』を開催。スザンフィリップスの展示作業に来ていたフランクと出会う

山下、3周年公募写真展「ニューライフ」を企画

山下、「albus帖」と題したフリーペーパーを発行する

オリジナルのカメラバックをcotomonoさんと制作。現在も活躍中

写真家 川内倫子×二俣公一トークショウ

こどものカタチ研究会第1回「東日本大震災と学校」

写真家 若木信吾×青木由香トークショウ

山内悠写真展『夜明け』

酒井、山下、中田の3人で糸島へドライブ。運転は酒井

トレネの姉妹店、TAGSTAオープン!

デザイナー新藤敦子入社。入社早々に酒井著の「いつかいた場所」の編集デザイン

近所の高木のおっちゃん四年目にして、はじめて写真展をみにくる。いつもTシャツにジャージだがバリバリのシャツできた

ディレクターの田北さんが「まちづくりスクール」を開催。テーマは、デザイン、社会的養護、里親など現場に根付いた貴重な話を交えて行われた。現在もゆるやかに開催(切望)

七五三のチラシを、今や作家として大活躍の「knock」の西山勲さんに作ってもらっていた

和泉流狂言方 宮永優子さんの狂言ワークショップを開催。はっはーと笑い回る

西村佳悟さん著『いま地方で生きるということ』に掲載してもらう

酒井、福岡市都市景観賞の審査委員になる

田北さんデザインの「アーバスオリジナル年賀状」ができた

「まちの写真屋を考える」九州大学大学院田北研究室との共同授業。写真的文化的意味について学生と一緒に研究する

松尾修(写真家)×加藤直徳(TRANSIT編集長)×尾原史と(PLANON代表)トークイベント「写真が写真である必然」

西山勲写真展『Desert Song of Morocco』

オフィスをシェアしていた、浅野デザインさん(現在は、浅野藝術株式会社)と「どこなくロゴも似ている」が引っ越す。オープン時の設計デザインを担当してくれた

トーキョウ写真展「Dakar No Jikan」1階スペースが展覧会場に

『10zine vol.3』開催。今をときめくデザイナーやイラストレーターが大勢参加

アルバス改装。デザイナーは有吉祐人さん(SUPMONI)

平野由紀(ウフラボ)、中田たくま(青い月)、酒井咲帆トークショウ『デザインが届かない時間』(コーディネーター・田北雅裕)@DESIGNING?

トーキョウ「F/style」と考えるデザイൻ@DESIGNING?

八女のRail coffeeさんとMuffさんとの企画『FILM FILM FILM』展を開催

リラチョさんがスタジオでマッサージ店を月一回オープン

パリの写真家アントニージラルディが作品撮りに来店

フィルム「ソラリス」生産終了

漫画家 佐々木充彦トークショウ「朝を迎えた街」

中川正子写真展「新世界」

ミロコマチコ展「ホロホロチョウのよる」

初の青空写真館企画が生まれた年

経理として石井勇さんが入社。アルバスを踏み台として現在は「MINOU BOOKS AND CAFE」を営む。(2015卒業)

カメラマン山下舞さんインターンから入社。後々、経理・編集・カメラマンの敏腕社員として腕をふるう(2017卒業)

カメラマン佐藤竜一郎さん入社。よく社長と間違えられる(2015卒業)

空前の「写ルンですの乱」が起きる

F\_d石川博己さんの写真教室が始まる

「やさしい社会科」と題して、organの武未充さん朋子さんとデザイナーの野見山聰一郎さんと石井さんが発起人となり勉強会を開催。原発や政治、憲法などを真面目に議論し合う。また開催したい

七五三のチラシを、今や作家として大活躍の「knock」の西山勲さんに作ってもらっていた

和泉流狂言方 宮永優子さんの狂言ワークショップを開催。はっはーと笑い回る

酒井、福岡市都市景観賞の審査委員になる

階段にフライヤー置き場を取り付けてもらう。どうぞ自由にお持ち帰りください

酒井、写真集を出版「いつかいた場所」

原博文写真展「家族の風景」以前まで写真屋を営んでいた原さん。何度も来店してくださりアルバスでプリントした写真で開催

酒井、大阪iTohenにて写真展「いつかいた場所 vol.2」

『10zine vol.3』開催。今をときめくデザイナーやイラストレーターが大勢参加

アルバス改装。デザイナーは有吉祐人さん(SUPMONI)

オフィスをシェアしていた、浅野デザインさん(現在は、浅野藝術株式会社)と「どこなくロゴも似ている」が引っ越し。オープン時の設計デザインを担当してくれた

山下、3周年公募写真展「ニューライフ」を企画

店名を変更「albus写真ラボ」から『albus』へ

酒井、展覧会「春になったら苺を摘みに」に参加

キッキンミノル写真展「海」。観る時間によって表情が変化していく美しい写真でした

パリの写真家アントニージラルディが作品撮りに来店

フィルム「ソラリス」生産終了

漫画家 佐々木充彦トークショウ「朝を迎えた街」

卒業する中田のスライド & トーク『じゅんさんのひとりカタリバ』

野上さん入社(2013年卒業)

ミロコマチコ展「オオカミがとぶひ」

「albus」から「ALBUS」に! ロゴマークも一新! デザインは中川たくまさんによるもの。

手紙の紙ものまつり開催。アルバスの前に長蛇の行列が。床が落っこちそうなほどのお客さんの数!

東京の写真屋monogramさんと暗室barをする

酒井、待望の第1子、スーが生まれる。生まれる数時間前にアルバスに寄る。陣痛開始時のご飯は近所のおかめ寿司

酒井、ウェブマガジン「greenz」に掲載してもらう

中川たくま・西村佳悟 スライド & トーク「東北・陸前高田での仕事の報告会」

酒井、福岡県立美術館主催の「とっとく」とくおきゅく」は展に参加。県立収蔵品の山本作兵衛氏の作品の隣に並べていただく

富士山の山小屋「太陽館」から関次廣さんがトークイベント「雲の上に住む人・富士山須走七合目の山小屋から」

子どもたちによる『Art Room 第1回作品展』

山下の好きが高じて、アナ「イメージと出来事」リリース「2014年の出来事アコースティック編~写真で切りとったみた瞬間~」の会場に。当日は大盛況!

撮影にアルバムメニューが。まだ手振りで制作していた

つじこうじ写真展「ダレカノジカン」1階スペースが展覧会場に

酒井、『神さまはどこ? 酒井咲帆・前田景写真展』太宰府天満宮で半年間に開催。ワークショップや撮影会、グッズ販売など企画盛りだくさん。40名を超える神主全員を一人ずつインタビューして撮影した写真が印象的だった

ALBUS企画 6周年だよ「全員集合」写真展

山下、愛する愛犬、小鉄と2/11にわんわんをちなんで家族撮影。小鉄は山下の背中に乗ったり見つめ合ったりしてご機嫌でした

吉川直哉氏による『ここから考える写真』スクールーあたらしい写真家になるために』を主催。作家志望の10名が熱い思いで参加した。その後もほとんどの方々が各々の現場で活躍されている

糸島作家の展示販売会「手でくるくらし」とこのきー

絵本作家の展示販売会「手でくるくらし」とこのきー

九州大学田北雅裕研究室を中心としたプロジェクト「みんなの力で児童相談所のホームページをデザインしたい!」直前公開ミーティング

インターだった花田くんが「ベルリン写真留学日記」を送ってくる

山下、コトバナ企画のトークにゲストで参加「撮る・つくる・残す・暮らしと写真の楽しい関係@IMS」。ドキドキしながらスラッシュ全員で後ろの席から山下を応援しに行く。素直な言葉の数々で、あらためて山下の思いを受け取り、お店を続けていく決心をする

手作りの木の贈り物展 + キッズシアの座編みワークショップ by Kiiro

今はアルバスの凄マネージャー、カメラマン目野つぐみ入社。出勤初日にうんちを踏む(運がつく)

酒井、太宰府天満宮で結婚。スタッフみんなで着物をきてお祝いに参列。山下と新藤、天満宮の参道で外国人観光客からの「イッショニ、シャン!」に応じ、お祝いに500円渡される

自野、結婚する! 舞と新藤が、つぐみの顔を見るたびボロボロと泣く。酒井の祈辞に感動してくださった。目野の夫のお父さんのお嬢さんの旦那さんがわざわざ挨拶に来てくださった。つぐみはプランナーと意気投合。今後一緒に仕事をすることになりそう

酒井、急遽酒井の出産写真を撮る。感動と興奮で手が震え、写真もブレる

国内外で活動する沖賢一展覧会「THE HOP SCOTCHES」

酒井、福岡市立美術館の「とっとく」とくおきゅく」は展に参加。富士山作兵衛氏の作品の隣に並べていただく

ANTIBODIES Collectiveダンスパフォーマンス「DUGONG」とのコラボ撮影企画「ダンシングフトwith AOC」

念願叶っての展覧会『TAKASHI HOMMA Decomposed Trails Exhibition』。DMは一枚の写真を切り刻み、エディション入りで配布。配布したDMが全部集まると1枚の作品になるように新藤がデザイン

木原千裕写真展「それは、愛?」シンガーソングライターの二階堂和美のライブも作家自身が企画された。その後、この作品で塩竈フォトフェスティバルで特別賞を受賞された

ALBUS編集教室「心をのせるお仕事ライティング&編集講座第4期」

阿部裕介写真展とトークイベント「ライ麦畑にかこまれて」

吉川直哉氏による『ここから考える写真』スクールーあたらしい写真家になるために』を主催。作家志望の10名が熱い思いで参加した。その後もほとんどの方々が各々の現場で活躍されている

「那珂川町にはあります」開催企画 / ALBUS OFFICIAL CAMERAMAN in 那珂川を開催。那珂川にある前の町を撮影してほしいと、プロボーザルに参加して選ばれ(酒井、事前に山下舞より洋服を指摘されたり、プレゼントの練習をさせられるが思い通りに言えず途中で投げ出したまま参戦)。舞は那珂川を車両で下見するなど余念がなかった)。その成果もあり1年間の那珂川の魅力を撮